

元治元年七月九日より元治元年七月十二日まで

P8311162 right

死無し旨、京地敷て会津と土佐争端を開くよしの風聞有し、南部遠江守義、京師御警衛被仰付、□来る一方を投せし旨、牛姑小品を携え来る、藤山稽古に来る、設け例の通り、大野より過日約せし明け荷を受取として使のものさし越す、寺山今般転役賀 並残を兼、白帷子  
夏冬

肩衣に弍百疋添遣す、保三来る、金港甲参両州より崎陽へ英国船便に有し、信太郎乗組来ては  
□行□の旨、急便申来る

十日申 陰漸晴

寺西(蔵)初て来り面す、金□(鉄京地より帰着せしとて京陶(急子茶碗五)を贈り志願の義申聞る、野宮(市太)

同断来り急子一、猪口(ちよこ)を贈る、小品を酬い不面、出 殿、例年の局中割合金三方、友助へ渡す

昨甲豊両州への返書差立る、由比へ過日の謝として麻上下地を贈り遣す

十一日酉 雲漸晴夕前薄雲

P8311162 left

藤左衛門、今日四時御用召右名代の義頼越す、松盛亭稽古に来る、一盞(き)を勧む、富沢叔母鶏卵井納豆葛麩蠟燭等持参、中元の賀になるべし、松盛亭に配食、出 殿、藤左衛門名代を心得処、御役 御免勤仕□小普請入被仰付、其段同人家来宮崎寺兵衛へ達す、長州沖へ英船相廻り御国人を以、書翰往復ありし由云々の新聞紙あり、即時豊後守殿へ上る、

藤左衛門方より月番

箱返し来る、水野痴雲閉居御免相成候段、吹聴状さし越す

十二日戌 晴

保三来る、隣家安部地面の義に付来る面す、柳亭稽古に来り、紫蘇卷、真桑瓜、薑(生姜)一把急□子等贈らる、出 殿、金港甲豊両州より時書其外件の問合せ越老人出張の様申来りしとて閨老へ相伺□州、即時出張す、向への中元賀品を配達す、河内守殿御役 御免被仰付、去る八日より暁に達し筑波出陣御目付永見某旅宿へ火を差もの有し炎燄難消

\*一盞(さん)、小さな酒杯

( )内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。